

北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース

No. 63 2022. 8

北海道大学の授業・実習場面からみたボランティア活動	湯浅万紀子	1
着任のご挨拶	北野 一平	3
コロナ禍での「平成遠友夜学校」	吉田 康祐	4
コロナ禍のチェンバロ ボランティア活動	新妻 美紀	5
第2農場でのボランティア活動	石田多香子	5
大山圭也君が逝く	石川満壽夫	6
北大キャンパス カフェめぐり	久末 進一	7
夏季企画展「感じる数学」・「第3回 建築の学生展」	研究支援推進室	8

報 告

北海道大学の授業・実習場面からみたボランティア活動

北大総合博物館 教授 湯浅万紀子

2022年度、キャンパスは緑輝く季節を迎えています。6月時点では、北海道大学では厳密なコロナ対策をとった上で、授業を基本的に対面で実施できるようになりました。

総合博物館では毎年、主として学部1年生を対象にした授業「モノ+コト+ヒト=北大総合博物館」を開講しており、小澤館長をはじめ全教員と資料部研究員が分担して各分野の研究と教育、博物館活動を講義しています。

私が担当した2回では、大学博物館全般の歴史と使命を紹介した後、当館での生涯学習支援と学生教育について解説し、館内の展示見学を実施しました。ボランティア活動については2001年度から開始され、現在は約220名の方に15グループでご協力いただいていることを紹介しますと、学生達はまず、さまざまな年代の方々から成るその人数と活動の幅広さに驚いた表情を見せます。ボランティア活動への理解を深めるには、活動現場を見学したり、ボランティアの方々から活動の内容や活動への思いを直接伺うことも重要です。そこで、授業では、館内見学の際に、展示解説グルー

プの渡部さんに展示室で解説と質疑応答をしていただきました。

その後、教室に戻ってから、渡部さんには解説に関する一連の取り組みについてご説明いただきました。文献調査などによる解説シナリオの作成、当該分野の研究者によるシナリオの監修、シナリオの改訂、展示室でのふるまいも含めたりハーサルとグループでの意見交換、解説実施、解説参加者への聞き取り調査、フィードバックというプロセスを学生達は知り、大学博物館の活動に協力するボランティアの方々の取り組みの重みと深さを感じ取っていました。

学芸員養成課程の一環である「博物館実習」でも、この数年間、展示解説ボランティアの笹谷さんと渡部さんにご協力いただき、上記と同様にご対応いただいています。実習生達は、お二人それぞれに異なるボランティア活動への応募動機を伺ったり、関心のある分野を勉強して来館者に向けて解説してご好評いただいた時の達成感、他所では出会えないようなメンバーや学生、教職員との交流の楽しさ、活動を通して自分の世界が豊かに

なると実感する喜びなどを直接伺うことで、お二人にとっての活動の意味をイメージできたようです。実習日誌には、総合博物館の生涯学習支援の取り組みの意義を実感できたことが綴られました。

このように私は授業や実習を通して、ボランティアの方々と北大の学生が交流する場をアレンジしていますが、学生達の希望によりそのような機会を設定し、ボランティアの方々にご協力いただくことも少なくありません。たとえば、大学院生を対象にした2021年度の授業「博物館コミュニケーション特論：学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価」では、14名の学生が動画制作に取り組みました。特にコロナ禍という来館制限のある社会状況でも多くの方に動画を通して博物館に親しんでいただきたいと考え、「おいでよ、北大総合博物館～北大生から見た魅力」というタイトルのもと、テーマが選定されました。制作されたのは次の3テーマ・4編の動画、内2テーマにボランティアの方々にご協力いただきました。いずれも総合博物館の公式YouTubeチャンネルで公開されています。

「学部展示で出てくる北大のおもしろ研究」（6分1秒）は、文学部と理学部、農学部展示の一部を解説し、学生が伝えたい見所を説明しました。

「北大 ポプラよみがえり秘話」は「並木編」（5分1秒）と「チェンバロ編」（9分43秒）から構成し、2004年の台風で倒れた北大のポプラ並木の再生と、ポプラが部材として使用されチェンバロとして甦った経緯、博物館で管理しているこのチェンバロの仕組みと特徴について、北大大学院に入学したばかりの学生を案内するスタイルで解説しました。グループ担当の大原教授にご紹介いただいたチェンバロボランティアの新妻さんには、解説内容を点検していただいただけでなく、演奏もしていただきました。

「知られざる化石ボランティアの活動を覗いてみた」（7分4秒）には、小林教授からご紹介いただいた化石ボランティアの岡野さんのアレンジにより糸井さんと臼田さん、尾上さん、川又さ

ん、近藤さん、佐藤さんにもご協力いただき、大学院生の守屋さんにもご対応いただきました。

化石のクリーニングとレプリカ製作の過程の説明だけでなく、ボランティア活動への応募動機や感想も語っていただきました。普段の生活と異なる何かを始めたかったこと、時間感覚をなくすほど集中していること、化石に関する興味が尽きずにやりがいを感じていること、むかわ竜の化石のクリーニングという貴重な体験ができたこと、そしてさまざまな年代のメンバーや小林教授と学生達との交流の楽しさが笑顔で語られました。

この動画制作では、学生達は本編撮影時だけでなく、事前の取材の場面でもボランティアの方々の活動を見せていただき、お話を伺うことで、総合博物館は多くの意欲的なボランティアの方々のご協力により活動が成立していること、そしてその方々が活動にそれぞれに意味を見出していることを実感したとのことでした。

2001年度から開始された総合博物館のボランティア活動が、ボランティアお一人お一人にとっても博物館にとっても意味あるものとなるよう、博物館教職員はサポートしてまいります。そして、ボランティアの皆様には、北大生と交流して彼らのボランティア活動への考察を深める機会も与えていただきたいと願っています。



2021年度 学生企画
動画「おいでよ、北大総合博物館～
北大生から見た魅力」

着任のご挨拶

北大総合博物館 助教 北野 一平

はじめまして。2022年3月に北海道大学総合博物館の助教に着任しました、北野一平と申します。担当は岩石鉱物学分野で、専門は地質学、岩石学、地質年代学です。地表付近で形成した岩石（堆積岩、火成岩）が地殻同士の衝突や地殻の沈み込みによって、地下深部にもたらされて変化した岩石「変成岩」を対象としています。南極やスリランカ、日本各地の変成岩の解析を通して、地殻変動史の解読や地殻変動以前の変成岩の起源推定などの研究を行っています。私は熊本生まれ、福岡育ちで、タモリさんが在学した筑紫丘高等学校と同学区の春日高等学校を卒業し、九州大学理学部地球惑星科学科に入学しました。同学科卒業後、九州大学大学院比較社会文化学府で修士(理学)を、九州大学大学院地球社会統合科学府で博士(理学)を取得しました。引き続き、九州大学大学院比較社会文化研究院で学術研究員または特任助教として勤務しました。昨年4月から栃木県立博物館で地学分野の学芸企画推進員を務めたのち、北海道大学総合博物館に赴任してきました。九州大学所属時には第58次・第60次日本南極地域観測隊に参加し、2度の南極地質調査を行いました。

さて、多くの高校生にこのボランティアニュース誌を読んでもらっているとのことですので、参考までに私が地質・岩石の研究者を目指したきっかけをご紹介します。私は、物理と数学が得意な完全に理数系の高校生でした。教育にも関心があったので、単純に将来は高校の物理または数学の先生になろうと思っていました。九州大学へ入学後、ある講義で、博多湾内の能古島のこのしまという小さな島で地質の巡検が行われました。その中で、一欠けらの石から、その石がいつどのような環境・作用で形成されたのか、能古島に産する岩石の成り立ちとその地球のダイナミックな活動（地殻変動）を語る先生方の姿に感銘を受けました。そして、自らの手で岩石をハンマーで採取してルーペで観察することで、時空を超えて遙か太

古の地球の一部を直接手にし、その姿を垣間見ている状況に感動を覚えました。それから地質学や岩石学に興味をもち始め、その先生の下でご指導を賜りました。北海道日高山脈で地質調査のイロハを教わり、日本国内各地やモンゴル、スリランカ、南極といった海外での調査・研究を展開してきました。いまでも私は、実物を直に手にする、目で見ると重要性を根底に持ち続けています。北海道大学は全世界や宇宙を対象に、現地で踏査するフィールド精神、最先端技術を駆使するフロンティア精神に根差した研究・教育を行っており、研究の最前線に立つ、現地へ赴き実物を見て手にする、最適な環境にあると感じています。高校生の皆さんにはぜひそういった視点でも北海道大学を見てもらえたら幸いです。

北海道大学総合博物館は、北海道大学で築かれた英知を社会や地域に還元・共有する施設として重要な立ち位置にあります。高校生や市民の皆様にとっても身近な北海道大学への窓口になっているのではないかと思います。これから、大学と社会を結ぶ北海道大学総合博物館の一員として、研究・教育・社会貢献活動に尽力する所存です。しかしながら、博物館の持続可能な運営には、ボランティアや市民、学生の皆様のご協力が必須です。何かと至らぬところがあるかと思いますが、皆様のご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。



南極での調査風景 (2019年1月9日撮影)

コロナ禍での「平成遠友夜学校」

平成遠友夜学校 生徒 吉田康祐

「皆さん、コロナ禍の中で夜学校を今後どうするか皆で腹藏無く意見を出し合おうじゃないか」感染防止により開催会場が変更されたクラーク会館での定例講義終了後、藤田校長先生からのご提案があったのは4月18日の肌寒い夜でした。今年に入って「ドカ雪」「知床海難」「ウクライナ問題」と多難の連続。そして、猛威をふるう「コロナ」収束のつかぬ現実に、暫し一同沈黙と溜息！

思えば1894(明治27)年、新渡戸稲造先生の創立から幾多の歴史を経て、2005年「平成遠友夜学校」として全く自由な学風の下、藤田先生が心血を注がれ、幾多の専門の先生による熱い講義が続いてきた「夜学校」。思いもかけない2年余のコロナ感染拡大という大きな試練で、夜学校は年明けより休講せざるを得ず、やっと4月の声を聞き再開しましたが、新学期を迎えても感染拡大は続き、先生のその夜のご提案となったのでした。

「オンラインでは」「もう少し様子みては」様々な意見の中、ある生徒の意見が皆の胸を打ちました。「大変な事態だが、『遠友夜学校』の歴史の中で戦争による中断があった。それを乗り越えて今日がある。我々も万全の感染対策と運営の工夫でこの苦難を乗り越え何としても継続しようじゃないか。いつの日か収束し、苦難に立ち向かった歴史を我々も刻もうじゃないか」生徒一同の魂に響くこの一言に、次週からの継続が拍手で決定されました。6月を迎え、少しずつ感染数が減ってくる中、皆の創意工夫により毎週開催されています。皆のチームワークがさらに強固になりました。さて、こんな状況ですが、コロナ禍にも負けない。ある日の「夜学校」を紹介いたしましょう。講義は、北キャンパスに荘厳に佇む「遠友学舎」で、毎週火曜日夕方6時15分よりスタートですが、会場準備は生徒有志により5時前から開始です。何と言っても感染対策の徹底です。受付にアルコール消毒液やマスク等を置き、机、椅子はソーシャルデスタンス。長机には椅子2、角机には椅子1

で基準人数15名分の椅子を用意します。会場は、教会を思わせる高い天井で広々としていますが、換気に充分留意します。5時半頃から生徒たちが向学心に燃え次々と着席します。職業も年代性別も全くバラバラですが、今日はどんなお話がと腫を輝かせ待ちます。プロジェクターも準備され定刻6時15分になるといよいよ教頭先生(北大大学院生)の司会により講義がスタートです。まず最初に参加者全員による「都ぞ弥生」の斉唱です。藤田先生(元恵徳寮応援団長)の音頭により、マスクをしながらですが心と魂を込めた熱い歌声が会場に響き渡ります。窓の外には薄暗くなったキャンパスに幾時代も変わらぬ行きかう人々のシルエットが郷愁をさそい胸が高まってきます。心洗われ唄い終わるといよいよ講義開始です。従来講師の先生は、各分野での専門の先生にお願いしてきましたがこのコロナ渦からは、校長先生が講師となり毎週熱烈な授業となっております。

現在、連続講義として「ウクライナ問題」に平行して「札幌農学校の歴史的考察」が展開されています。(先月の講義では平和の大切さを訴えるイタリア映画「ひまわり」(DVD)を上映し感動の一夜でした)。日々刻々と変わるウクライナ情勢ですが平行して先生が話されるクラーク先生の教えが人としてあるべき姿を想起し襟を正しています。

講義の合間には熱心な質疑応答が行われ活発な意見交換にテーマが盛り上がります。

熱心な講義も午後8時をめぐりに終了となります。コロナ渦の前までは全員による片付けの後に茶話会がありましたが、今は残念ながら休止です。(学期終了時の参加者全員が一品料理を持ちよるパーティもお休み中)熱い余韻を残し、各自帰宅となりますが、多くの方は去りがたく星空の下学舎通路で時のたつのも忘れ種々お話を花をさかせます。こんな私達をクラーク先生、新渡戸先生は遠い夜空の彼方から「コロナに負けないで！」と暖かく見守って、励まされておられる事でしょう。

活動報告

コロナ禍のチェンバロ ボランティア活動

チェンバロボランティア 新妻美紀

2020年2月2日の博物館コンサート、2月5日のミニコンサートを最後に、コンサート活動が出来なくなり、2月29日よりコロナによる初休館になりましたが、週一度はチェンバロのメンテナンスには通っていました。

しかし、4月15日～5月22日までの約一ヶ月は博物館立ち入り禁止となり、メンテナンスは出来ませんでした。まだ休館中でしたが、一ヶ月ぶりに様子を見に来た時は、チューナーの針が凄まじい勢いで動き、計測出来ないほど音が狂ってしまいました。ボランティアでもある調律師の小野敏史さん、製作者の横田誠三氏の助言を受け、少しずつ元に戻すことが出来ました。

季節の変わり目にぶつかったことも大きかったです。その後も度重なる休館がありましたが、メンテナンスに通うことが出来ました。

博物館が再開した現在でも、コンサート活動は出来ませんが、ボランティアが交代でメンテナンスを

続けています。

そのような中でも、学生がボランティア登録をしてくれました。限られた学生生活の中でも、アンサンブルをしたり、チェンバロの面倒をみてくれます。また、スタッフの方々もこまめに室内の温度、湿度をチェックして下さり、助けられています。

2021年の夏、学生による動画制作で、その中のグループがチェンバロを取り上げてくれました。撮影前にはチェンバロの説明をし、学生達も台風でポプラが倒れ、チェンバロが完成するまでをよく調べてくれました。また、台本を作成したり、短期間での準備も大変だったろうと思います。動画の中では、チェンバロを演奏させて頂きました。完成した動画はとても素晴らしいものになりました。

コロナ禍で制限された活動の中、学生達と楽しい一時を共にすることが出来、とても嬉しかったです。

また皆様にポプラチェンバロの音色をお届け出来るよう、メンテナンスを続けてまいります。

活動報告

第2農場でのボランティア活動

第2農場ボランティア 石田多香子

2019年度秋のガイドツアー以降、2020年度はコロナの発生で第2農場は外観のみの公開となり、活動は7月から10月まで週1回清掃を行いました。

2021年度も外観のみの公開でしたので、4月に建物の表示板設置と11月に農場の冬支度で清掃と雨戸の冬囲いを行っただけでした。

この間2020年12月に大先輩の寺西辰夫さん、2022年3月に大山圭也さんが他界され、何とも寂しい限りです。

2022年度もコロナ禍で外観のみの公開となりましたが、新人ボランティアが4名加わり、気持ちを新たに頑張ります。今のところ、北大関係団体の見学は実施しているのでそれに合わせ清掃活動を行っています。尚、見学の解説は近藤先生と三谷先生が担当されていますが、今後人数が増えた時には

密を避けるためボランティアの私たちも少人数での展示解説をすることになります。

第1回は4月27日、清掃、建物の表示板設置、蜘蛛の巣払い。モデルバーンの2階に馬の剥製を展示することが出来、馬による農工具の使い方を具体的に説明できるようになります。今後の解説が楽しみです。

2回目は5月26日、清掃、蜘蛛の巣払い。久しぶりの参加者と新人2名が加わり総勢10名で活動しました。

3回目は7月7日、清掃、蜘蛛の巣払い。久々の仲間と新人1名が加わり総勢6名が埃にまみれ和気あいあいの活動でした。

7月16日からボリビアに行かれる近藤先生の土産話を楽しみに次回8月17日の活動日を待ちます。

大山圭也君が逝く

資料部研究員 石川満壽夫

総合博物館のボランティアとして活躍した大山圭也君は75歳を目の前にした本年3月23日9時49分、妹夫婦に看取られて自宅から静かに旅立った。死因は前立腺癌であった。遡ること5年前にリンパ癌が発症し、円山の愛育病院にて12か月に及ぶ入院治療にて回復した。その後、新たに原発性の前立腺癌が発症、隣接する背骨に転移し、最後は骨髄に転移したのである。本人曰く「難しいリンパ癌を克服しながら、比較的生存率の高い前立腺癌にやられた、腰痛を訴えていただけに発見が遅くなったことが悔しい」と述懐していた。

彼は昭和22年北海道釧路市生まれ、父親が小学校の教職であり、道東地域の雄大な環境の中で育った。釧路湖陵高校から昭和42年北海道大學理類に入学した。小生とは同じクラス仲間として知合い以来55年の付き合いの始まりであった。同級生では、ボランティアニュースで納豆博士、遠友夜学校最後の校長、「半澤洵小伝」を執筆してくれた半澤久君がいる。その後彼は農学部に進み農業工学科を専攻、現在の第二農場も研修の場だったという。このようなことからボランティアとして「平成遠友夜学校」、「第二農場」を選んだことも何やら見えざる手に導かれていたのかもしれない。

話は大学卒業時に戻る。父親の影響もあってか道立高校の教職を選んだ。最初の赴任地は道東の根室高校、まだまだ水産漁業が盛んな時期であった地域、根室、厚岸、浜中、釧路と札幌などの都会とは一味違う生徒も多く、学業だけでなく人間教育の面でもいい経験であったと述懐していた。教え子の一人に漁師がいる、北海道仙鳳趾産の牡蛎は「究極の牡蛎」と評され厚岸湾の中でも世界レベルのブランドに育てた人物は自慢の教え子であった。いつかボランティア講演会の講師となって聴きたい内容であった。40代からは札幌に異動し、札幌市内のあすかぜ高校、手稲高校などで教職を続けた。退職後は藤女子学園にも招かれ教職一筋を全うした。その縁もあって二

百名を超える藤女子学園の生徒が第二農場の見学に押し寄せ、「大山先生！」という黄色い歓声が第二農場に沸き上がったことは鮮明に覚えている。高校教諭としてどこの学校でも慕われる彼の人間性の証しであろう。

彼とはこれからの生き方をしばしば語り合った。ボランティア活動についても次の様に考えていた。
①第2農場のガイド時には単に酪農施設、解説だけでなくクラーク先生が招かれた時代、北海道の役割り、国内はどのような時代であったかなども言及したい。

②伊福部昭先輩の偉業顕彰に関与したい。理系主体の北海道大學で林学を学び道庁役人をしてながら独学で日本を代表する交響曲の作曲家になった人物、母校でもこれからの次代を担う若者に専門分野だけでなく理系文系を超えて活躍できる可能性を伝えたい。

大山君自身も理系であったが、俳句、デッサン、料理、将棋と多芸であった。俳句は新聞でも何回も投稿作品が掲載された。料理も腕前は仲間内でも評判で「板さん圭也」「割烹圭也」と称されていた。デッサンも第二農場を題材に風景画を本格化するべく購入したての絵具、色鉛筆セットなどが遺品の中から見つかった。完治さえすればボランティアニュース編集長、そしてボランティアの会の要職も期待できる人間味溢れる人物であった。



ボランティア5年継続表彰の時
小澤館長と共に、前列右が大山圭也さん
(2021年4月6日撮影)

活動報告

北大キャンパス カフェめぐり

図書ボランティア 久末進一

「北大構内食べ歩き」（本誌第42号、2016年9月）の著者大山圭也氏（本誌編集委員）が、病気で急逝された。まことに痛恨の極みだが、名のごとく「大人」の風格があった温厚な人柄をしのび、冥福を祈って、故人が愛した構内のカフェをたどり、その魅力を再び探してみる。

ミュージアム カフェ ぼらす

重厚な北大理学部旧校舎のかもし出す知的雰囲気ひたって、黙ってひとりの時を楽しむもよし、待ち合わせた再会の時を喜ぶもよし。6年前のリニューアルの時、総合博物館内に新開店以来、市民、学生、教職員、ボランティアが、交流のひと時をくつろいでいる。西興部村萩原牧場産牛乳によるソフトクリームが大人気。豆まめカレー、予約が必要なローストポーク丼も好評で自然栽培野菜による料理にこだわっているとか。ミュージアムショップ隣接の館内1階施設。見学疲れを癒す小さなオアシスと言える。

カフェ アンド ラボ

北大マルシェ Café & Labo

緑に囲まれた北大百年記念会館内1階の店。ホルスタイン種飼育の草分けとして知られた北大農場の乳牛から搾乳した「北大牛乳」がここの目玉で、ごくごく飲むもよし、多彩な乳製品を選ぶもよし。コーヒー通は、エスプレッソをホットミルクに注ぐカフェラテが好み。どれも実践的学問の伝統が育んだ北大の味がする。

カフェ de ごはん

（インフォメーションセンター「エルムの森」内）

キャンパスの正門横に2021年10月オープン。ここでも北大牛乳のソフトクリームが好評。散歩の途中に立ち寄って買う市民も多い。ぼらすソフトと味のなめ比べを楽しむ手もある。

名物は、フランス産発酵バターによるクロワッサンという。

この気軽さと確かな味が良いところ。学生食堂以外にも、ちょっと寄り道して休憩したくなる、知る人ぞ知る隠れ家的スポットがそこにある。こんな自然に包まれた休憩空間こそ、博物館施設を超えて広がる北大ならではの博物館環境、ミュージアムゾーン（博物圏）ではないか。

レストランエルム（閉店）

構内名所「大野池」に面したファカルティハウス「エンレイソウ」内の同店は、札幌グランドホテル（1934年創業）営業の名店だったが2020年3月26日閉店した。27年間、愛され続けたこの店の名物は、トマトベースの「クラークカレー」。道産食材によるカレーを推奨したクラーク博士伝説の一つになった。

いずれの店もコロナ禍に対抗する営業時間、定休日、メニュー、テイクアウトなど、工夫しており、あらかじめ確かめておく気づかいも、どうぞお忘れなく。各店自慢のメニューは、食べてみた人にしか分からない美味しさである。美味しさを伝えられないのが残念である。



北大総合博物館1階の“ぼらす”
(2022年7月6日撮影)

研究支援推進室よりお知らせ

夏季企画展

「感じる数学～ガリレイからポアンカレまで～」

会期：2022年7月30日（土）～9月25日（日）10時～17時

会場：北海道大学総合博物館 1階 企画展示室

主催：北海道大学総合博物館、数学みえる化プロジェクト

協力：北海道大学大学院理学研究院数学部門、(株)イーアイテック、
(株)くいんと、北海道算数数学教育会 高等学校部会研究部
数学教育実践研究会



今年度の夏季企画展は面白い試みの数学展です。
数学が博物館で取り上げられ、展覧会になることは、
珍しいと思いますので、是非会期中にご覧ください。

「第3回 建築の学生展」



あなたにとつてのケンチクが、変わる日

会期：2022年10月8日（土）～10月9日（日）

10時～17時

会場：北海道大学総合博物館 1階 企画展示室

及び知の交流ホール

主催：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
有志学生、文学部人文科学科哲学・文化学コース
芸術学研究室学生有志

共催：北海道大学総合博物館

第3回 建築の学生展

2022.10.8[Sat]-10.9[Sun] 10:00-17:00 入場無料

会場：北海道大学総合博物館 1階企画展示室、知の交流ホール
主催：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース有志学生、
文学部人文科学科哲学・文化学コース芸術学研究室有志学生
共催：北海道大学総合博物館
◎投資で制作した建築模型・図面等の展示や学生による説明を行います。
※模型・図面等の展示は事前予約が必要となります。また、展示の予約は必ず事前に電話またはメールにてお申し込みください。
お問い合わせ
企画展示室
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
TEL: 011-706-2658
E-mail: hokudai-museum@hokudai.ac.jp
2022.10.8

今年3回目を迎える本企画は、北大工学部建築都市コースの有志学生が、「計画設計演習」の授業で制作した図面や模型を通して、演習内で取り組んだ建築の計画や設計の提案を、学内外の方に対して、対面で解説しながら建築設計の面白さを楽しんでいただくものです。

企画から運営まで、すべて学生自身が組み立て、開催します。

北海道大学総合博物館 ボランティア ニュース No.63

- ◆編集人：北海道大学総合博物館 ボランティアの会（編集委員：星野フサ、今井久益、久末進一、山岸博子）
- ◆発行人：在田一則
- ◆発行日：2022年8月1日
- ◆連絡先：〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 Tel: 011-706-2658
- ◆ボランティアニュースは、バックナンバーも含め、総合博物館ホームページからご覧になれます。
<https://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/volunteer/volunteernews/>